

原籍	新潟縣	出生地	二丁目二番地
本貫	東京府華族	舊	水戸藩
列位		生年	天保十九年十月
生國鄉	水戸	舊姓	廣安
町村		姓	伯爵
年號	明治元年四月	資格	官衛
同 年四月	軍監被仰付候事		
同 年五月	多年勤王志厚之軍曹被多加獎勵政術 故聞食扁化之軍曹被多加獎勵政術 新入唐旨奉戴誠心可致候事		
同 年七月二日	其方率身炳一代捨人扶持被先行有也		
同 年九月一日	軍務官准判奉試補被仰付候事		
同 年九月一日	准藏府年務局可致勤仕旨	官	東道邊貢
九月廿五日	准沙汰候事	內	少司
九月一日	軍務官准判事被仰付候事	外	鎮將府
春末冬之軍旅太總督官隨體積 力達東北平定之功奏之候以覺感不 浅依之不取敢為仰太刀折金百五十兩	鎮將府	官	
下賜候事			
但東北平定至十九年正月皇國御雖			
特儀深之神吉慶被為近候并尚此 紀年嚴兩相守誠實之旨之緣之可			
遂奉公旨准沙汰候事			
壬月十五日	東北諸藩賞罰取調被仰付候事	行政官	

原籍	新潟縣	出生地	二丁目二番地
本貫	東京府華族	舊藩	水戸藩
族籍	東京府華族	生年	天保十三年十月
勳位		舊姓	廣安
生國	水戸	名	香川政三
郡		姓	伯爵
村		官	
水戸		衙	
年號	明治元年四月	資格	官
年月日	明治元年四月廿一日	官	衙
任職	任叙轉免出張賞罰等	官	衙
理由	辭令書(告入)此欄內記入之	官	衙
明治元年四月	軍監被仰付候事	官	衙
同	年五月 同年四月	軍監被仰付候事	官
年	多幸勤手志厚，種類難候故付妙，至 校閱食宿化之軍曹、被召加授猶嚴所 一新，神主旨之奉戴之誠心可致候事	官	衙
年	其方率身炳一代，拾人於待被先行者也	官	衙
同	年七月一日	軍務被仰付候事	官
年	軍務被仰付候事	官	衙
同	年八月一日	軍職之領將府軍務局可致勤仕旨	官
年	九月廿五日	御沙汰候事	官
同	十月一日	軍務官榷判事被仰付候事	官
年	十一月一日	春末冬之軍旅大總督官隨體積立 力連本北平定之功奏准以慶感不 減依之不取敢為仰太刀判金百五十兩	官
年	十二月一日	下賜候事	官
同	但來北平定至北平前皇國御錦	鎮將府	官
年	正月廿日	特賜深之御苦慮被為送候事尚此 紀綱嚴肅相守誠實旨上鑑之可 遂奉公旨御沙汰候事	官
年	二月廿日	東北諸藩賞罰取調被仰付候事	官
年		行政官	官

十二月四日	十二月四日	十二月四日	十二月四日
同日敍 徒五位下	同日敍 徒五位下	同日敍 徒五位下	同日敍 徒五位下
同月四日 東京在勤被仰付候事	同月四日 東京在勤被仰付候事	同月四日 東京在勤被仰付候事	同月四日 東京在勤被仰付候事
同月二年三月九日 御用有之早々上京可有之様御次候事	同月二年三月九日 御用有之早々上京可有之様御次候事	同月二年三月九日 御用有之早々上京可有之様御次候事	同月二年三月九日 御用有之早々上京可有之様御次候事
六月二日 戊辰正月末山道總督徒ニ東下軍ヲ	六月二日 戊辰正月末山道總督徒ニ東下軍ヲ	六月二日 戊辰正月末山道總督徒ニ東下軍ヲ	六月二日 戊辰正月末山道總督徒ニ東下軍ヲ
監ニ野州ニ戰ニ續テ軍務官ニ出仕	監ニ野州ニ戰ニ續テ軍務官ニ出仕	監ニ野州ニ戰ニ續テ軍務官ニ出仕	監ニ野州ニ戰ニ續テ軍務官ニ出仕
職務勵精力ヲ至率ニ盡ニ候改觀感	職務勵精力ヲ至率ニ盡ニ候改觀感	職務勵精力ヲ至率ニ盡ニ候改觀感	職務勵精力ヲ至率ニ盡ニ候改觀感
不減仍ニ為其貢三百石下賜候事	不減仍ニ為其貢三百石下賜候事	不減仍ニ為其貢三百石下賜候事	不減仍ニ為其貢三百石下賜候事
高三百石	高三百石	高三百石	高三百石
八月廿三日 箱館軍功賞典取調掛致 仰付候事	八月廿三日 箱館軍功賞典取調掛致 仰付候事	八月廿三日 箱館軍功賞典取調掛致 仰付候事	八月廿三日 箱館軍功賞典取調掛致 仰付候事
依軍功示世下賜候事	依軍功示世下賜候事	依軍功示世下賜候事	依軍功示世下賜候事
七月六日 废軍務官勞兵御有	七月六日 废軍務官勞兵御有	七月六日 废軍務官勞兵御有	七月六日 废軍務官勞兵御有
七月十八日 任兵部權大臣	七月十八日 任兵部權大臣	七月十八日 任兵部權大臣	七月十八日 任兵部權大臣
明治三年一月七日 依頼免本官	明治三年一月七日 依頼免本官	明治三年一月七日 依頼免本官	明治三年一月七日 依頼免本官
同日 御用有之候間來京在勤可政事	同日 御用有之候間來京在勤可政事	同日 御用有之候間來京在勤可政事	同日 御用有之候間來京在勤可政事
九月十九日 金無軍曹總管東京御事	九月十九日 金無軍曹總管東京御事	九月十九日 金無軍曹總管東京御事	九月十九日 金無軍曹總管東京御事
同日 儀制及局出仕被仰付候事	同日 儀制及局出仕被仰付候事	同日 儀制及局出仕被仰付候事	同日 儀制及局出仕被仰付候事
十月八日 御用有之上京被仰付候事	十月八日 御用有之上京被仰付候事	十月八日 御用有之上京被仰付候事	十月八日 御用有之上京被仰付候事
十一月十九日 任宮内権大臣内舍人長	十一月十九日 任宮内権大臣内舍人長	十一月十九日 任宮内権大臣内舍人長	十一月十九日 任宮内権大臣内舍人長
四年二月 八月廿廢大臣坐權大臣	四年二月 八月廿廢大臣坐權大臣	四年二月 八月廿廢大臣坐權大臣	四年二月 八月廿廢大臣坐權大臣
五月廿日 築木島一周ノ志願主辞職依頼免本官	五月廿日 築木島一周ノ志願主辞職依頼免本官	五月廿日 築木島一周ノ志願主辞職依頼免本官	五月廿日 築木島一周ノ志願主辞職依頼免本官
五年正月 寓省理事官隨行心得及御用筋取調可	五年正月 寓省理事官隨行心得及御用筋取調可	五年正月 寓省理事官隨行心得及御用筋取調可	五年正月 寓省理事官隨行心得及御用筋取調可
中事 於米國華盛頓府	中事 於米國華盛頓府	中事 於米國華盛頓府	中事 於米國華盛頓府
青晦日 鄭朝	青晦日 鄭朝	青晦日 鄭朝	青晦日 鄭朝

六年 背三月 補官內有大等出仕		音吉言任宮內少丞	
七年 背世言任宮內大丞		九月八日 兼補武部參四等出仕	
同月十日 與御巡幸供奉被仰付候事		同月十日 與御巡幸供奉被仰付候事	
同日 御幸中庶務內廷諱長兼勤被仰付候事		同日 御幸中庶務內廷諱長兼勤被仰付候事	
同月十四日 免兼出仕		同月十四日 免兼出仕	
十年 背九日 大少丞以下被上僕		十年 背九日 大少丞以下被上僕	
同日 任宮內大書記官		同日 任宮內大書記官	
同月三日 出納課長被仰付候事		同月三日 出納課長被仰付候事	
同日 有樞官閑院官御家政取締被仰付候事		同日 有樞官閑院官御家政取締被仰付候事	
十一月十四日 沖幸御用掛被仰付候事		十一月十四日 沖幸御用掛被仰付候事	
同月三日 沖幸供奉被仰付候事		同月三日 沖幸供奉被仰付候事	
同月三日 兼任皇后宮亮		同月三日 兼任皇后宮亮	
十三年 背九日 滉用有之京都并奎良長被差遣候事		同月九日 滉用有之京都并奎良長被差遣候事	
同月八日 沖幸御用掛被仰付候事		同月八日 沖幸御用掛被仰付候事	
同月七日 御世幸供奉被仰付候事		同月七日 御世幸供奉被仰付候事	
同月七日 任皇后宮大夫		同月七日 任皇后宮大夫	
同月七日 有吉出納諱長被免候事		同月七日 有吉出納諱長被免候事	
同月七日 兼任宮內大書記官		同月七日 兼任宮內大書記官	
同月七日 布哇國皇帝來朝并接付掛被仰付候事		同月七日 布哇國皇帝來朝并接付掛被仰付候事	
同月七日 聞詎取拂役被付候事		同月七日 聞詎取拂役被付候事	
七月十日 布哇國皇帝陛下賜賜シルカラカワ		七月十日 布哇國皇帝陛下賜賜シルカラカワ	
同上		同上	

					ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
十七年七月廿六日	内蔵頭松井之郎不在中代理被仰付候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
九月廿五日	伊太利國皇帝陛下 アルドルロードイヌデルラコソナディタリヤ勲	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
十五年六月十七日	叙勳三等	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
十六年七月十八日	御用有之福島縣下被差遣候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月二日	權典侍千種任子妊娠付御用掛被仰付候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月二十四日	御用有之京都、被差遣候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月廿四日	任宮内少輔栗皇后宮大夫	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月廿八日	内規取調委員被仰付候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月廿九日	但事務、餘暇以テ取調可致候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月三十日	千葉縣下御獵場御用掛被仰付候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月四日	千葉縣下御遊獵場御用掛被仰付候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月廿九日	諭令在岩倉貿易事務所用掛被仰付候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月七日	贈太政大臣岩倉貿易事務所用掛被仰付候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
同月廿八日	御用有之京都、被差遣候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル
十七年七月廿六日	内蔵頭松井之郎不在中代理被仰付候事	同	太政官	宮内省	ナイトコソマンドル勲章ヲ受領シ及佩用スルノ許サル

十八年 肆十九日	福岡縣下行幸供奉被仰付候事	宮内省
四月八日	行幸御巡河被仰出	
廿九日	瑞典國算詰威國皇帝陛下予贈與ニタル ワサ第ニ等勳章ヲ災領シ及佩用スルヲ	
十九年 三月四日	不許候事	
四月五日	官内省 <small>自今宮内勅奏付宿ノ寫合倉 奉勅奉行事被定</small>	
九月六日	任皇后宮大夫兼主威頭諸陵頭	
七月八日	勅任一等年俸四千四下賜	
十月廿日	久宮御扈育主任被仰付候事	宮内省
元年 五月九日	特旨乃以華族二級列候事	宮内省
十一月廿日	依勳功特授子爵	宮内省
廿一年 胤任主馬頭 <small>主馬頭功勳請</small>	宮内省	宮内省
廿二年 肆月廿日	免秉主駕頭	宮内省
廿二年 七月四日	受四表情表陳以防海之事業之贊成	宮内省
廿二年 七月八日	金手印狀約保 <small>明治二十年五月三十日</small>	宮内省
廿二年 七月廿日	勅定銀製黃沒復章賜之ヲ	宮内省
廿二年 七月廿日	帝室制度取調委員被仰付候事	宮内省
廿二年 七月廿日	官制取走	宮内省
<small>今般官制改定付ノ從前之官職官等又傳 給ノ新官制ニ於本ニサル輩ハ更正候ヲ要ス 徳ノ從前之通「相仁厚」ノ旨 審而存之</small>		

同日	免兼官	官内省
	賜三級俸	
	主馬寮監督被仰付候事	
廿月廿四日	閑院官御用掛被仰付候事	同上
廿月廿五日	章都行啓供奉被仰付候事	同上
廿月廿八日	京都行奉行敵中大膳職事務監督	
	被仰付候事	
廿月廿九日	逕貴定額取調委員被仰付候事	同前
廿月卅日	明治廿八年八月三日勅令第百三号ノ旨依 大會審議法發布記念章ノ授與ス	
廿月廿九日	特賜年俸四千五百四十	
廿三年四月十四日	奉良兵庫西縣行啓供奉被仰付候事	官内省
廿月廿九日	臨時奉公制度取調局ノ廢止	官内省
廿四年六月廿七日	改城縣下行啓供奉被仰付候事	官内省
廿四年六月廿八日	衛佐規程取調委員被仰付候事	官内省
廿四年六月廿九日	遣准國王陛下ノ贈與ノ免准羅王	官内省
廿四年六月三十日	冠第一等勳章ヲ受領シ及ヒ佩用	官内省
	允ヲ允許ス	
廿五年二月一日	兼任閑院別當	
廿五年二月廿日	明治廿五年度常用部隊算取調委員被 被仰付候事	官内省
廿五年二月廿二日	官軍新隊員ニ就	官内省
廿五年二月廿四日	明治廿五年度常用部隊算取調委員被 被仰付候事	官内省
廿五年二月廿四日	嘉慶體式取調委員長被仰付	官内省
廿五年二月廿四日	改官印中 高參官等	官内省



廿九年三月廿四日	伊太利國皇帝陛下賜與之先王冠第一等勳章ヲ受領シ及佩用充テ允許ス	賞勳局
十月七日	明治辛年年度豫算取調委員會被仰付	官内省
十一月七日	依願主与章監督被免	同
同日	宣太子殿下來三十一年七月御成事ニ達セ	宮内省
三十一年四月十三日	元一哥諸般事項取調委員會被仰付	宮内省
六月一日	明治十七八年戰役際報圖、旨意、以ノ軍資 内々金一千圓、就納シ及從軍有家殊勸 為之金五百圓寄附促改奇特良傑為其畫	宮内省
三十一年五月五日	明治卅一年度豫算取調委員會被仰付	金杯(筒下)賜與
三十一年五月五日	明治卅一年度豫算取調委員會被仰付	賞勳局
三十一年六月六日	露西亞國皇帝陛下賜與之先王冠第一等勳章ヲ受領シ及佩用充テ允許ス	宮内省
五月一日	東宮御所御送管調查委員會被免	賞勳局
十一月六日	明治三十一年度豫算取調委員會被仰付	宮内省
十二月六日	獨逸國皇帝陛下賜與之先王冠第一等 勳章ヲ受領シ及佩用充テ允許ス	賞勳局
二月十五日	親任官ア久ア待遇ニテアル	同
九月十五日	爵位局長公爵若處莫定不在代理被仰付	官内省
十月十五日	明治卅四年度豫算取調委員會被仰付	同
同月十九日	法蘭西共和國政府賜與之先王冠第一等 勳章ヲ受領シ	同
及佩用スルヲ允許人		賞勳局



皇后宮大夫	親王官侍遇
高等官一等特賜年俸四千五百円	
算大膳頭	
末次見宮御用牀	
九月廿日 高麗親王御嬪儀御用掛被仰付	宮内省
十月廿日 韓國皇帝陛下贈與之恩華大勳章ヲ 受領し及佩用ルヲ允許セラル	賞勳局
九月廿二日 伊蘭英智國政府之贈與シテクランオノレ ードロードナルナシヨナルトニレジオンドイル	
十一月廿日 限至年度皇室採算會議委員被仰付	同
十二月廿日 青茜加賜年俸五百圓	同
四十二年一月十三日 沼津行政供奉被仰付	官内省
二月八日 補議定官	内閣
有六日 兼任杞參觀河官	官内省
四十三年一月十日 沼津行政供奉被仰付	官内省
一月廿日 七十歳ノ高齡三付御紋付御杯並酒肴 料ヲ下賜ヒタリ	内閣
四月一日 官等俸給令改正	官内省
四十四年一月十日 沼津行啓供奉被仰付	内閣
五月十日 維新史料編纂委員會委員被仰付	官内省
同 里布屋下 叙正二位 青茜 神官御奉書件體被仰付	内閣
四十五年一月青茜 沼津行啓供奉被仰付	官内省
大正元年七月 改元	官内省
置皇后宮職	

八月一日  
韓國合意章授  
興

皇太后宮大夫

(大正元年七月三日皇室令第七號) 体給前官一通

青芒目 係願免兼官(大膳頭)

宮 内 省

本  
青芒目 皇太后陛下沼津行啓供奉被仰付

同 上

青芒目 皇太后陛下京都行啓供奉被仰付

同 上

青芒目 皇太后陛下沼津行啓供奉被仰付

同 上

青芒目 昭憲皇太后靈柩供奉被仰付

同 上

青芒目 皇后宮大夫事務取扱被仰付

同 上

青芒目 任皇后宮大夫兼皇太后宮大夫

同 上

青芒目 敘高等官一等

同 上

青芒目 賜一級俸 皇太后宮大夫

同 上

青芒目 加賜年俸千圓 皇太后宮大夫

同 上

青芒目 皇太后宮職務取扱被仰付

同 上

青芒目 授旭日桐花大綬章

同 上

青芒目 通常會計仕官之命(元皇太后宮職務取扱被仰付)

同 上

青芒目 藤山行啓供奉被仰付

同 上

青芒目 蔡去

同 上

青芒目 御沙汰

同 上

維新際力ヲ國事ニ効シ東征、役軍

ヲ山道ニ監レ職ニ宮内ニ就キ命ラ

壺聞ニ承ク昭憲皇太后ニ奉事レ

テ坤徳ヲ毗贊セレコト三十餘年恪勤

爰フニトナク勲業實ニ多シ今ヤ太后

陵土未タ乾タルニ奄長逝ラ聞ク曷

フ宸棹ニ勝ム宣ノ時ニ齋シテ臨

メ弔ス一吉日御沙汰便奉

皇后陛下ヨリ祭

一祭粢金五千圓

履

麝

周

絨

柳

管

院